

第8回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議
(議事概要)

1 開催日時

令和6年6月24日(月曜日) 11時00分から12時00分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 16階北塔 特別会議室 S6

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	柿澤 雄二	参事官(国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	(欠席のため意見代読)
公認会計士	中村友理香	

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第8回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・3月の第7回会議では、「東京2025デフリンピックまでのロードマップ」及び寄附・協賛、「ビジョン2025アクションブック」について皆様にご確認をいただきました。
- ・本日は、「デフリンピック応援隊・公式マスコット」等について、順次説明をさせていただく。
- ・皆様、本日も忌憚のないご意見よろしくお願ひしたい。
- ・それではこれより次第に基づき議事に入る。「デフリンピック運営委員会における取組」について説明させていただく。

【資料説明】

○デフリンピック運営委員会における取組（デフリンピック運営委員会）

- ・まず、5月27日に開催したデフリンピック運営委員会の議題より、「2024年度デフリンピック・フェスティバルについて」、事務局より説明する。
- ・2024年度のデフリンピック・フェスティバルは、今までデフスポーツやデフリンピックに関心がなかった層および子どもたちの目に触れる機会を増やすこと、そしてデフアスリートやデフ競技について周知を図ることを狙いとする。
- ・そのため、実施箇所は大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で、全国で8か所実施する。
- ・開催候補地は、福島県、東京都、埼玉県、神奈川県、愛知県、京都府、他は調整中である。
- ・開催にあたり、運営委員会はその取組を後押しする為、2023年度同様に地域ろう当事者団体に対し、1か所10万円を上限に助成を行う。
- ・イベントで配布する啓発物の作成および掲示物の作成にあたっては、運営委員会が協力する。
- ・助成要件は、大会ビジョンにある「あらゆる人が協働」、「子どもの参画」、「デフスポーツやろう者の文化への理解を促進」、「共生社会づくりに貢献」等に留意し、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知度の向上を図り、デフリンピックの気運醸成に資するものであり、実施主体が、地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援があること。
- ・対象とする経費は、諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、保険料、委託料である。なお、助成にあたっては、開催要項、予算案を運営委員会事務局にて審査し、また助成金に加え、他の補助金や参加費等の収入がある場合で、収入額が支出額を超過した場合は、超過した金額を差し引いて助成するものとする。
- ・次に、デフリンピック運営委員会での報告事項を共有する。
- ・まず、2023年度デフリンピック・フェスティバル実施報告である。
- ・フェスティバル開催にあたり、きこえない人ときこえる人の協働を通じた共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政の後援等の形を基本とした。
- ・運営委員会はその取組を後押しする為、地域ろう当事者団体へ1か所上限10万円の助成を行った。
- ・2023年度は、全国7ブロック（北海道、東北、関東、東海、近畿、中国・四国、九州）にて各1カ所開催した。なお、北信越ブロックは、石川県で開催を予定していたが、石川県及び北信越ブロックとして、能登半島地震の被災者支援に注力するため、フェスティ

バルの開催は辞退することになった。

- 助成承認手続きにあたり、開催要項、予算案、決算報告、証憑書類を運営委員会事務局にて審査し、主催団体に助成を行った。具体的には北海道協会 10 万円、福島協会 86,770 円、神奈川協会 99,419 円、東海ブロック 10 万円、鳥取協会 10 万円、福岡協会 10 万円となった。なお、近畿ブロックの参加費により収入が支出を上回ったため、助成金はゼロであった。
- 次に、社会的・文化的プログラムについてである。
- デフリンピック規約では、選手やその他大会を訪れる関係者等が、開催都市の社会的・文化的プログラムを含むレクリエーションプログラムを利用できるようにするとされている。
- 2023 年度は、大会に向けての取組として、聞こえない芸術文化団体や外部有識者等で構成する検討チームを立ち上げ、会議を 4 回開催し、検討を進めてきた。
- なお、検討チームの委員は昨年 11 月の第 3 回運営委員会で報告した、全日本ろう者演劇協会 前事務局長の植野氏をチームリーダーに、聞こえない芸術文化当事者団体からは椎名氏、那須氏を、外部委員は齊藤氏、中山氏の 5 名である。
- 検討チームは、これまで 4 回の会議を持ち、過去のデフリンピック大会の社会的・文化的プログラムの調査や本大会における社会的・文化的プログラムの検討を行った。
- 検討チームではプログラムの方針を、子どもたちや市民の大会への関心を高め、デフアスリートや大会への応援の気運を醸成することを目的とし、デフスポーツやデフリンピック、手話言語等について理解を深め、障害や多様性、共生社会について考えるきっかけとなる内容とするものとした。
- プログラムは全国の自治体等で気運醸成事業を実施してもらうため、当該自治体等の負担を軽減できるよう、事業の構成案をまとめたプログラムを作成し、カテゴリを①教育ワークショップ型プログラム、②イベントワークショップ型プログラム、および①②のプログラムを実施するための素材として③コンテンツ紹介とした。
- ①教育ワークショップ型プログラムは、小中学校で、デフスポーツやデフリンピック、聞こえないことや手話言語について学び、大会への関心を高めてもらうことを目的とする。地域の聞こえない講師を活用また、楽しみながら学べるよう、映像、ワーク、クイズ、ゲーム等で構成する指導案を作成した。
- ②イベントワークショップ型プログラムは、多くの市民が集まるイベントや施設を活用し、大会や聞こえないこと、手話言語、ろう者の文化活動、情報保障機器などを体験し、共生社会の実現につなげるよう、自治体の既存のイベント等に組み込む形でワークショップの実施や展示ブースで構成するプログラム内容としている。
- 教育ワークショッププログラムやイベントワークショッププログラムの取組を支援するため、講師や素材、情報保障機器・技術等のコンテンツを紹介するのが③コンテンツ紹

介である。コンテンツのカテゴリは「デフスポーツ」「きこえないことや手話言語」「ろう者の社会活動」「展示ブース」とし、コンテンツに登録する団体や民間企業は、その取りまとめる団体また機関からの推薦としている。

- ・各プログラムは、コンテンツ紹介を作成の上、ポータルサイト上で公開し、加盟団体やデフ競技団体等を通じて実施を呼びかけていく。
- ・以上で、デフリンピック運営委員会の取組についての説明を終わる。

○東京 2025 デフリンピック応援隊・公式マスコットについて（事務局）

- ・次に、東京 2025 デフリンピック応援隊の結成と公式マスコットについて、説明する。
- ・大会を様々な主体が応援し、大会に親しみを持っていただけるよう、各自治体等のキャラクターによる「デフリンピック応援隊」を結成した。
- ・応援隊は、各地で大会に向けた気運醸成やデフアスリートを応援し、大会を盛り上げるもの。
- ・本件については、6月11日にプレス発表を行い、全国の自治体から応援隊への参加を受け付けている。
- ・応援隊による盛り上げに加えて、都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」を東京 2025 デフリンピック公式マスコットとした。公式マスコットは応援隊の先頭に立って大会広報や気運醸成を行うほか、大会運営においても活躍していく。

○デフリンピックスクエアについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・デフリンピックスクエアについてご説明する。
- ・大会期間中、運営や輸送、選手同士の交流など様々な機能を集約した拠点「デフリンピックスクエア」を国立オリンピック記念青少年総合センターに設置する。
- ・デフリンピックスクエアは大会運営本部、輸送のハブ、メディアセンター、練習会場等の機能をもつ大会運営拠点に加え、新技術を活用したユニバーサルコミュニケーションや交流、文化鑑賞等、選手向けの様々なサービスを提供する。
- ・国立オリンピック記念青少年総合センターはこれらの機能に対応する施設を保有し、様々な場を一度に提供できることから、事業を効果的に展開することが可能である。
- ・デフリンピックスクエアを国立オリンピック記念青少年総合センターに設置し、大会を成功させ、大会の経験やノウハウをレガシーとして継承することで、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会の実現に貢献する。

○東京 2025 デフリンピックに係るクラウドファンディングについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・前回の準備連携会議において寄附・協賛の開始についてプレス資料に基づきご説明し、その際、クラウドファンディングによる寄附については、今後実施を予定しているとご説明した。
- ・みんなで大会を創り上げていきたいという願いを込めて、5月24日からクラウドファン

ディングを開始し、7月25日まで実施しているところである。

- ・今回のクラウドファンディングでは、チラシや専用サイトのページに大会情報や選手のコメントなどを掲載し、デフリンピックをもっと知ってもらえるように工夫した。
- ・今回の実施状況に応じて、次回以降のプロジェクトの検討を進めていく。
- ・大会の成功に向け、みなさんで力をあわせて大会を創っていきましょう。引き続きご支援・ご協力のほどお願いしたい。

【意見交換】

○東京都 渡邊次長

- ・今年度は、大会開催の1年前となり、詳細な運営プランニングのフェーズに入る。連盟や事業団と連携を密にし、大会の成功に向けて、運営準備を加速させていかなければならない。
- ・本日の報告にもあったとおり、多くの方々に応援いただき、大会に親しみを持ってもらえるよう、各自治体等のキャラクターによる東京2025デフリンピック応援隊を結成する。クラウドファンディングや寄附・協賛とあわせて、より多くの方々に支えていただける大会を実現したい。
- ・また、デフリンピックスクエアについても、UC技術の活用を含めた日本ならではの「おもてなし」の提供や東京の魅力発信に向け、事業団と連携して進めていく。
- ・さらに、都では、選手の発掘が進んでいないハンドボール、射撃、テコンドー、レスリングの4競技を対象に、即戦力となる選手を発掘するため、東京都デフリンピックチャレンジトライアウトを実施。東京大会で実施する全ての競技で日本代表選手の出場につなげ、大会の一層の盛り上げにつなげていく。
- ・引き続き、皆様のご助言、ご支援をいただきながら、円滑に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いする。

○スポーツ庁 柿澤参事官

- ・公式マスコットが決まり、また東京2025デフリンピック応援隊も結成された。こうした取組を通じて、日本全国のデフリンピックの盛り上がりにつながればと考える。
- ・今年はパリオリンピック・パラリンピックが開催される。パリオリンピック・パラリンピックの観戦を通して、国民のスポーツへの関心が高まったところを、デフリンピックの気運醸成に生かせるよう、スポーツ庁としても協力していきたい。
- ・デフリンピックスクエアやクラウドファンディングを活用した寄附など、大会準備が着々と進んでいると実感した。
- ・このたび「骨太方針2024」が閣議決定された。デフリンピックについても、昨年度に引き続き記載され、今年度は「開催支援」という文言が盛り込まれた。
- ・スポーツ庁として、デフリンピックの気運醸成、デフスポーツの興隆、また大会の成功に向けた日本選手の強化の支援についても充実させていく。関係省庁とも連携して、東

京都や全日本ろうあ連盟の大会に向けた円滑な準備や開催に資するよう、しっかりとサポートしていきたい。

○JOC 星常務理事

- ・パリオリンピック・パラリンピックを機に、世界陸上とデフリンピックに注目が集まるため、気運醸成が全国的な規模になることが、レガシー創出の観点からも重要と考える。その点で、デフリンピック・フェスティバルが、昨年度とは違う場所で今年度開催されるのは非常に効果的と考える。
- ・また、アスリートの活躍が、気運醸成のため非常に有効である。沖縄でデフバレー世界選手権が行われ、日本は非常に良い結果を出している。こうしたことを、たくさんの人に知ってもらえるよう、競技団体とも連携をして、効果的な発信をしていただきたい。JOCでもノウハウの提供など、協力したい。

○JPSA 藤原常務理事

- ・先月、神戸で世界パラ陸上競技選手権大会が開催され、大成功を収められた。1年前、テスト大会という意味も含めて日本選手権大会が開かれ、参加したが、その時はまだ知名度が全然なく、スポンサー企業もなく、開催が懸念されていた。そこから1年で、大変な努力をされて、大会を無事に成功させることができた。非常に多くの観客が訪れ、9日間の大会で1日1万人という高い目標に対し、最終的に9日間で約84,000人、一日あたり9,000人以上という非常に多くの観客が訪れた。特に、神戸市、兵庫県が、学校観戦に力を入れて、延べ171校、約28,000人が観戦した。平日は学校観戦で来て、土日には家族連れで観戦して、子どもたちがスタンドにたくさん入っていた。世界パラ陸上でここまで観客が入ったことがない、と世界から来た選手達も驚いていた。選手のレベルが高く、試合自体も面白かったし、表彰式を観客に近いところで行うなどの工夫もみられた。
- ・デフリンピックでも、会場が多くの観客で埋まり、子どもたちが手話を覚えて、選手等と会話ができれば、レガシーとしても残るし、良い社会の変革につながる。
- ・神戸の世界パラ陸上競技選手権大会の良い例を、東京デフリンピック大会にもつなげていけるよう、JPSAとしても最大限協力をしたい。

○中村公認会計士

- ・前回の連携会議で、委員から、東京2025デフリンピック大会情報サイトで、寄附協賛のページにたどり着くまでが分かりづらい、とのご意見があったが、今回のクラウドファンディングに関しては、トップページに大きく帯が出ていて分かりやすい。
- ・クラウドファンディングについて、All-in方式とAll-or-Nothing方式がある。デフリンピックのクラウドファンディングがどちらの方式なのか、専用サイトをスクロールしていくと記載されているが、目標額の下あたりに、もう少し分かりやすい記載があると良い。
- ・クラウドファンディング期間終了後の寄附の受け入れ先についても、ホームページ上で

分かりやすく記載されると良い。

○東京都スポーツ文化事業団

- ・いただいたご意見のとおり、分かりやすくしないと、寄附につながらない。いかに分かりやすくお伝えできるか、引き続き改善してまいりたい。あわせて、クラウドファンディングサイトの会員登録をされている方に案内のメールを送り、寄附へつなげていきたい。

○三好弁護士（欠席のため事務局より意見代読）

- ・運営委員会が様々な取組を実施されている状況が、よく理解できた。大会本番に向けて、ますます気運が醸成されることを期待する。
- ・寄附やクラウドファンディングについては、近年、詐欺被害が急増しているため、詐欺被害を防止するための啓蒙活動等もあわせて実施する必要がある。

【意見交換総括】

○事務局

- ・「デフリンピック応援隊・公式マスコット」等について、皆様にご確認をいただくことができた。
- ・次回連携会議についてだが、10月頃の開催を予定している。具体的な開催時期・開催方法については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けて努力していきたい。これを持ちまして、会議を終了させていただく。皆様ご協力ありがとうございました。